



## 9期生 インターン研修を経て活動開始へ

コロナ禍で3年ぶりに開催したチャイルドラインこうち受け手養成講座（2022年8月～10月開催）を修了した9期生の皆さんのインターン研修を11月から2月にかけて実施しました。

インターン研修は、チャイルドラインこうちの電話開設の場に参加し、子どもからの電話を直接受け、支え手とともに振り返るもので、1人あたり原則3日実施しました。

インターン研修を修了した12名の方は、今後、チャイルドラインこうちの新たな受け手として、ともに活動していきます。

今回のインターン研修では、一人の子どもの気持ちをじっくりと聴くことができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。それは、今まで子どもと関わる仕事をしてきて、集団を大切にすあまり、一人の気持ちを大事にできないことをずっと後悔してきたからです。

チャイルドラインは、電話をかけてきた一人の子どもにとことん寄り添うことができます。また、解決に至らなくてもその子と同じ時間を共有できます。そのことに本当に感謝しています。

今後は、子どもの力を信じ、その力に気づいてもらえるような対応のできる受け手になりたいと思っています。

### 9期生の声

インターン研修で、実際に受け手として子どもの話を聞きながら、自分の中に湧いてくる気持ちと向き合うことが簡単ではないなと感じました。

なんとかしてあげたいと思って、アドバイスしたくなったりするけれど、今この瞬間の子どもの気持ちに寄り添うことに集中することが大事だなと思います。

今後も受け手として、聞くことで救える心、命があると信じて、自分を磨きながら子どもたちの気持ちに寄り添っていきたくです。

### 「9期生への期待」

12名の受講生が、インターン研修も終えて、新たにチャイルドラインこうちの受け手として、お仲間になってくださいました事とても嬉しく思っています。

9期生のみなさんは、既に「聴く」ということの意味を意識されている方が多く頼もしく思います。

今後、「受け手継続研修」にも積極的に参加していただき、自分の受け手の振り返りをしながら、質の向上を常に目指していきましょう。チャイルドラインの目的、使命、基本姿勢を理解し、常に意識するために「チャイルドラインのガイドライン」は、必須アイテムだともいえます。

楽しく学び、自らが関わる事で社会に役立っているのだと自負して、これからのチャイルドラインこうちを共に支えていただけたら幸いです。**キーワードは【1:9で聴く】**を9期生の皆さんと共有していきたいです。

チャイルドラインこうち副代表 研修部担当 呉 静恵



初めての電話は少し緊張した可愛い女の子の声。「子ども＝我が子」という自分の固定観念に気づかされ、電話をかけてくるのは我が子とは20才も違う子どもたちだと、恥ずかしながら、改めて実感した瞬間でした。

「ありがとうございました。」と言って貰えると嬉しいです。「ひたすら寄り添い傾聴する」は難しいですが、自分も成長させて貰えるように思います。

毎月少しの時間の参加ですが、月を重ねて、気がつけば数年・・・が今の理想です。

3回のインターン研修の中で、実際に子どもたちからかかってくる赤裸々な声を聞いて、正直驚かされました。親にも言えない、先生にも言えない、友達にも言えないこと。そんな切ない想いを聴きました。

この研修では、緊張もありそんな想いを上手く受け止めて聴いてあげることができなかったように思います。

これからは、経験を積んで子どもたちの「ことば」の奥にある「心の声」に耳を傾けながら聴ける受け手になりたいと思いました。

## ご寄付のお礼 (2023年1月～2月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

### <企業・団体の皆様>

○株式会社 中島工務店 様 30,000円

（1月号にて寄付金額を10,000円と誤って掲載していました。

）謹んでお詫び申し上げますとともに金額を訂正して再掲させていただきます。

○食家「雅」様 4,000円（寄付つきメニューより／2022年10月～2023年1月分）

### <個人の皆様>

藤本真紀 様

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしく願いいたします。



◆会員数 (2023年3月1日現在)

活動会員 51人

支援会員 36人・団体